

新田梢(植物生態学)・片平浩孝(環境生物学)・高田久美子(気候システム学)

研究の背景

近年の重要な環境課題の一つに、「生物多様性」の喪失があります。2030年までに地球の陸と海の30%を保全する目標「30by30」が設定され、「OECD」(保護地域以外で生物多様性保全に資する地域)として、緑地や里山など地域の自然の保全が期待されています。

特に、地域の緑地は、希少な動植物の逃避地となり、自然を身近に感じられる憩いの場所として利用されてきました。一方、その重要性が十分に把握されないまま開発が進んだり、適切な管理がされずに放置されたりして、出現種数の減少や外来種侵入など、様々な問題がおこっています。



アプローチ

関東地域(神奈川県や東京都)に残る緑地で、いつ・どこに・何があったかについて、植物を中心とした生物調査を行います。2021から2023年度のプロジェクトでは、「NPO法人境川の斜面緑地を守る会」の協力のもと、市民の努力によって保全されている相模原市の緑地で植物調査を行い、冬から春にかけて劇的に変化する林床の植物相を記録しました。

2024年度は、主に、相模原市道保川公園にて、公園を管理する「横山公園グループパートナーズ(代表団体 横浜緑地株式会社)」と生物調査を行う「NPO法人生態教育センター」のみなさんと協働して、定期的な植物調査や維持管理活動などを実施します。フィールドワークとデータ解析から、植物相の把握や生物多様性の評価を実施し、公園の維持管理計画へのフィードバックを目指します。産学官連携での活動を通して、地域の生物多様性の価値について、総合的に検討します。

期待される結果

◆ 地域の緑地の生物多様性を評価

相模原市道保川公園は、これまで詳細な生物調査が行われておらず、生物多様性の実態を把握できていません。調査結果を、公園の維持管理計画や地域の生物多様性保全に活かします。

◆ 産学官連携で現場の技術を学ぶ

活動を通して、調査技術を高めるとともに、公園スタッフや市民のみなさんとの交流を通して、公園管理業務や生物多様性保全の現場を学びます。



募集方法

募集人数は3~5名程の予定です。個別相談やメールでの質問も随時受け付けます。

学生のみなさんは、野外でのフィールドワークを通して、基礎的な調査技術、植物を中心とした野生生物・自然環境の基礎知識を習得できます。さらに、現場での活動を通して、協調性や積極性を高めることも期待されます。野外フィールドに興味があり、積極的に活動できる皆さんの参加をお待ちしています。